

心に響く、映画の贈り物

～ 70代からの人生を豊かに彩る 厳選10作品 ～

映画は、
かつての記憶を呼び覚まし、新しい世界への扉を開いてくれます。

笑い、涙し、共感する時間は、心身の活力につながります。
今の気分ぴったりの作品を見つけてみてください。

01

最高の人生の見つけ方

2007年公開 |
ジャンル: ヒューマンドラマ (海外)

余命宣告を受けた二人の男性が、死ぬ前にやりたいことリストを叶える旅に出る物語。
人生の豊かさを再確認させてくれます。

02

東京物語

1953年公開 |
ジャンル: ドラマ

小津安二郎監督の傑作。離れて暮らす親子の関係を静かに描き、家族のあり方や老いについて深く考えさせられる名作です。

03

歩いても 歩いても

2008年公開 |
ジャンル: ドラマ

是枝裕和監督作品。
ある家族の夏の1日を丁寧に描き、何気ない会話の中に潜む家族の絆や複雑な感情を浮き彫りにします。

04

あん

2015年公開 |
ジャンル: ヒューマンドラマ

どら焼き屋を舞台に、ハンセン病という重いテーマを扱いながらも、生命の尊さと人との繋がり的美しさを描いた感動作。

05

男はつらいよ シリーズ

1969～年公開 |
ジャンル: コメディ

寅さんの愛称で親しまれる車寅次郎の旅情と人情の物語。
懐かしい日本の風景と笑い、涙が詰まっています。

06

マイ・インターン

2015年公開 |
ジャンル: コメディ/ドラマ (海外)

70歳のシニア・インターンが若き女性CEOを支える物語。
年齢を重ねることで得られる知恵や、新たな一歩を踏み出す勇気を貰えます。

07

インディ・ジョーンズシリーズ

1981～年公開 |
ジャンル: アクション/アドベンチャー (海外)

ワクワクする冒険活劇。
あえて活動的な映画を見ることで、若々しい活力を感じることができます。

08

サウンド・オブ・ミュージック

1965年公開 |
ジャンル: ミュージカル (海外)

美しい歌声とオーストリアの絶景。
音楽を通じて心が高揚し、何度見ても新しい発見がある不朽の名作です。

09

居酒屋兆治

1983年公開 |
ジャンル: ドラマ

高倉健主演。
不器用な男の生き様と、酒場に集う人々との交流を描いた、大人のためのしっとりとした人間ドラマ。

10

おくりびと

2008年公開 |
ジャンル: ドラマ

納棺師という職業を通じて「死」と「生」を真正面から描いた作品。
人生を締めくくることの尊さを教えてくれます。

【保存版】

シニア世代と楽しむ映画・会話のヒント集

レクリエーションや日常のコミュニケーションで使える一言情報を添えて

01：最高の人生の見つけ方

〈会話のきっかけ〉

「もし明日から自由な時間ができたら、一番やってみたいことは何ですか？」

〈現場で話せる豆知識〉

主演のジャック・ニコルソンとモーガン・フリーマンは、実生活でもこの映画を機に親交を深めたそうです。

02：東京物語

〈会話のきっかけ〉

「お子さんやお孫さんと最近お話しされたのはいつですか？」

〈現場で話せる豆知識〉

小津安二郎監督独特の『ローアングル（低い位置からの撮影）』が、日本の家庭の落ち着きを表現しています。

03：歩いてても 歩いてても

〈会話のきっかけ〉

「ご実家やお家での『おふくろの味』といえば何を思い出しますか？」

〈現場で話せる豆知識〉

樹木希林さんが演じる母親の、何気ないけれども鋭い台詞回しが、多くの人の共感を呼びました。

04：あん

〈会話のきっかけ〉

「甘いもの（菓子）の中で、一番好きなものは何ですか？」

〈現場で話せる豆知識〉

映画の中に登場するどら焼きは非常に美味しそうで、公開当時はどら焼きを買いに走る人が続出したそうです。

05：男はつらいよ シリーズ

〈会話のきっかけ〉

「寅さんのように、ふらっと旅に出てみたいと思ったことはありますか？」

〈現場で話せる豆知識〉

ギネス世界記録にも『一人の俳優が演じた最も長い映画シリーズ』として認定された、国民的な作品です。

06：マイ・インターン

〈会話のきっかけ〉

「年齢に関係なく、新しいことに挑戦するとしたら何を始めてみたいですか？」

〈現場で話せる豆知識〉

ロバート・デ・ニーロ演じる紳士的なベンは、当時のシニア世代にとっての理想の姿として話題になりました。

07：インディ・ジョーンズ シリーズ

〈会話のきっかけ〉

「若い頃、冒険記や探検ものにワクワクした思い出はありますか？」

〈現場で話せる豆知識〉

主演のハリソン・フォードは、当時からスタントの多くを自らこなすほど活動的だったそうです。

08：サウンド・オブ・ミュージック

〈会話のきっかけ〉

「ドレミの歌のほかに、つい口ずさんでしまう好きな曲はありますか？」

〈現場で話せる豆知識〉

物語のモデルとなったフォン・トラップ一家は実在し、実際に合唱団として活躍していました。

09：居酒屋兆治

〈会話のきっかけ〉

「昔よく通っていたお店や、忘れられない馴染みの味はありますか？」

〈現場で話せる豆知識〉

高倉健さんの代名詞とも言える『不器用で実直な男』の姿が、当時の男性たちの憧れとなりました。

10：おくりびと

〈会話のきっかけ〉

「人生の節目節目でお世話になった方で、今思い出すのはどなたですか？」

〈現場で話せる豆知識〉

日本映画として初めて米アカデミー賞外国語映画賞を受賞し、世界中に感動を届けた記念碑的な作品です。

銀幕のスターと語り合うひととき

吉永小百合・高倉健 厳選10選～現場で使える会話のヒント～

吉永小百合(よしなが さゆり)

キューポラのある街 (1962)

鑄物の街・川口を舞台にした青春ドラマ。
貧しくも懸命に生きる少女を熱演しました。

● 会話のきっかけ

「学生時代、夢中になって取り組んでいたことはありますか？」

● 撮影秘話・豆知識

この作品で史上最年少（当時17歳）でブルーリボン賞主演女優賞を受賞。
熱烈なファン『サユリスト』が誕生する きっかけとなりました。

伊豆の踊子 (1963)

川端康成の名作を映画化。旅芸人の少女と旧制
高校生の淡い初恋を描いています。

● 会話のきっかけ

「若い頃の『初恋』や、甘酸っぱい思い出の場所はどこですか？」

● 撮影秘話・豆知識

多くの女優が演じてきた『踊子』役ですが、原作者の川端康成が撮影現場を訪れ、
彼女の美しさを絶賛したと言われています。



北の零年 (2005)

明治初期、北海道の厳しい自然の中で開拓に挑む人々を描いた壮大な人間ドラマです。

● 会話のきっかけ

「新しい土地へ行ったり、環境が変わったりした時の苦労話がありますか？」

● 撮影秘話・豆知識

吉永さんは大の『水泳』好きで有名。この過酷なロケを乗り切るためにも、毎日欠かさず泳いで体力を維持していたそうです。



ふしぎな岬の物語 (2014)

岬のカフェを舞台に、集まる人々との交流を描いた心温まる物語。吉永さん自身が初プロデュースした作品です。

● 会話のきっかけ

「ほっと一息つける、お気に入りの場所や喫茶店はありますか？」

● 撮影秘話・豆知識

成島出監督とは、のちに『いのちの停車場』でもタッグを組んでいます。現場ではスタッフ全員に気を配る「座長」としての姿が評判でした。



母と暮せば (2015)

長崎を舞台に、亡くなった息子と母親の奇妙な交流を描いたファンタジー。山田洋次監督作品。

● 会話のきっかけ

「忘れられない大切な方との、一番の思い出を聞かせてください。」

● 撮影秘話・豆知識

戦後70年を記念して作られた作品。吉永さんは長年『原爆詩』の朗読活動を続けており、強い平和への願いが込められています。

高倉 健(たかくら けん)

幸福の黄色いハンカチ (1977)

刑務所を出た男が、妻が待つ家へ向かうロードムービーの金字塔。不器用な男の愛を描きます。

● 会話のきっかけ

「帰り道に自分を待っていてくれる人がいる、と感じた瞬間はありますか？」

● 撮影秘話・豆知識

有名な『ビールを飲み干すシーン』。高倉さんはリアリティを出すため、撮影前に2日間食事を抜いて挑んだという逸話があります。

駅 STATION (1981)

北海道を舞台に、一人の警察官の人生と関わる女性たちを描いたハードボイルドな名作です。

● 会話のきっかけ

「駅や鉄道にまつわる、忘れられない出会いや別れの記憶はありますか？」

● 撮影秘話・豆知識

劇中で流れる八代亜紀さんの『舟唄』が印象的。高倉さんの渋い演技と相まって、大人の男の哀愁が漂います。

鉄道員 (ぼっぼや)

(1999)

廃線間近の駅で、孤独に任務を全うする駅員の姿を描いた感動作。浅田次郎の小説が原作です。

● 会話のきっかけ

「仕事一筋だった時代、自分を支えてくれた誇りや信念は何でしたか？」

● 撮影秘話・豆知識

極寒の北海道・幾寅駅でロケが行われました。撮影の合間、高倉さんはスタッフ一人ひとりに温かいコーヒーを淹れて配ったそうです。

ホテル

(2001)

鹿児島を舞台に、特攻隊員の遺志を継いで生きる夫婦の絆を描いた物語。戦後の重みを伝えます。

● 会話のきっかけ

「時代を共に生き抜いてきた『戦友』のような存在はいますか？」

● 撮影秘話・豆知識

高倉さんは実際に軍隊経験はありませんが、戦後を生き抜いた人々への深い尊敬の念を持って役作りに励んでいたそうです。

あなたへ

(2012)

亡き妻の遺言に従い、富山から長崎へ自家製キャンピングカーで旅をする、高倉健さんの遺作です。

● 会話のきっかけ

「いつか行ってみたい、またはもう一度訪れたい思い出の地はどこですか？」

● 撮影秘話・豆知識

これが205本目の出演作。共演したビートたけしさんは『健さんはそこに立っただけで映画になる』と敬意を表していました。